

SPECIAL NOTE



EGseries

ヘッド (Head)

GRECOのオールドロゴとSuper Realのイタリックがひととき目立つオールドタイプのスモールヘッドストック。サウンド作りに大きな影響をおよぼすヘッドアングルは全機種に18°アングルを採用。(56年製モデル〜60年製モデルを調査した上で決定)ヘッドアングルに加えて、ヘッドがサウンドに影響を与えるのが表面にラミネイトされたメイプルツギ板なのだ。このメイプルツギ板の厚みで微妙にサウンド変化が起こるのだ。グレコではこのメイプルツギ板にオリジナルと共通の0.7%板を採用！ルックス面から見て最高の出来映えだ。(他社はふっ厚いツギ板を貼ったり、ひどいのはツギ板無しで塗装でごまかしてあるものまであるので注意してほしい)



ベグ (Complete Key Assembly)

チューニングは楽器の命とも言われる通り、チューニングが狂ってはどのようなもなし。グレコEGシリーズには、完璧なオールドクルーソタイプを使用。マテリアルからデザインまでパーフェクトな再現に成功。本体の素材には鉄とプラス、ノブにはパールロイド (Pearlloid)。もちろんブッシュタイプだ。ここで注意していただきたいのがオールドクルーソタイプにも2種類のノブ形状があるということ。シングルフランジ (Single flange) とダブルフランジ (Double flange) で、(俗に言う1コブ2コブのこと)これは年代によって変わってきているのだ。シングルフランジは61年まで、あとはダブルになる。このことから当然EGシリーズには全機種シングルフランジを採用している。細かい事だがやはりここまで見てもらいたい。しかしやはり一番注目してもらいたいのが、ベグ取り付け穴の加工方法だ。これはぜひ、ベグをはずしても見ていただきたい。グレコプロジェクトチームが開発した「ダブルシリンドラー加工」がそれで、ガッチリとベグをホールドしているのがわかるはずだ。他社の加工は同径でぶちぬかれているため、半年程度の使用にもカタを生じ、チューニングに悪影響を与えている。「ダブルシリンドラー加工」により、カタ、きしみともおさらばしたグレコギターで思い切りプレイしてくれたまえ。



グレコダブルシリンドラー加工

シリアルナンバー (Serial Number)

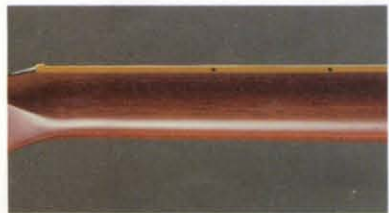
ヘッド裏面に押されたシリアルナンバーは、ブラックインクによるラバースタンプだ。ちょっとくずれたようなラバースタンプの味がオールドでなんともいえずいい雰囲気だ。ここまでやってるのはグレコだけ。



ネック (Neck)

●43-53グリップ (43-53 Grip)

ネックはマホガニーワンピースEarly 50's Neck。(EG56-60以下のコストパフォーマンスを考えたモデルを除く)59年製のスリムネックをパーフェクトに再現。ネックの幅はネーミングが示す通りナットのところで43%、12フレットで52.5%でキミの手にジャストフィットするタイプだ。ローポジションからハイポジションまでスムーズな指運びができることうけあい。また強度、音の伝達ということにおいてもグレコワンピースネックは材料の選択、シーズニング、加工のどの部分においても他を完全に圧倒。細心のクラフツマンシップがその出来映えを保障する。



Others

Greco

●L.A.C.ジョイント

[Large Area Contact Joint]

まず写真を見ていただきたい。結論から言ってしまうと、右がグレコのネックジョイント方法で、この方法こそがオリジナルスタンダードの方法なのだ!!これをグレコは新たに「L.A.C.ジョイント」と名づけ「サ・ミントコレクション」の全てのモデルに採用。ご覧になってお解りになると思うが、写真上の従来のジョイント方法と比べ、ボディとの接触面に格段の差があるのだ。接触面すなわち接着面が大きいということはギターにとって多くの面で好影響があるのだ。まず誰にでもわかることか接着強度が高いということ、このことはギターを弾く人にとって大きな安心感となる。その他、ガッチリとジョイントされているため音の伝達ということにおいても優れているし、ジョイント部分の精度に関してもコマミリ単位というパーフェクトなものだ。ちなみにこの接着面の大きさを悪い例と比較してみるとA社の接着面を100とした場合、グレコのL.A.C.ジョイントは約220もの面積があるのだ!!この素晴らしいL.A.C.ジョイントをやっているのは、グレコとオリジナルだけだ!!ネックジョイントということ、ここで参考までに、従来のジョイント方法をもう一つ載せておこう。図をひと目見て気が付いた人もいると思うが、これはあるメーカーの高級イメージで売られているギターのネックセット部分で、接着したのちネジで止めているのだ。ネジ止めだと加工が簡単で手間がかからない、ということは安くつくということだが、倍音吸収や共振点の移動などによりセットネック式エレキギター本来のタイトなサウンドが望めないばかりか、強度の点からもよくないのだ。ぜひ注意して見てもらいたい。



悪い例のネジ止めセットネック!!

指板 (Fingerboard)

「サ・ミントコレクション」EGシリーズの全機種にローズウッド指板を採用。弾きやすさを追求したスペシャル仕様になっている。まずローズウッド特有のヤニを特殊処理で抜き取ったあと、数段階にもおよぶサンダー加工をほどこすという徹底ぶりはグレコにだけできるクラフトワークだ。最終段階のサンダーの番手は他社のおよびもつかないものでやることによりフィンガリング、チョーキングの際にははっきりと差が出てくるのだ。そして注目すべきことは、指板をグルー (にかわ) 接着していること。時間と手間のかかるグルー接着をあえてグレコがやっているのは、あくまでも音質を重視したからである。

フレット (Frets)

フレットはモデルにより、2タイプを用意。

●ミディアムラウンド (Medium Round)

EG-56、57、58モデルに使用。俗に細フレットと呼ばれるもので、オールドの雰囲気ムンムンだ。幅2%高さ0.7%のフレット。

●ワイドオーバル (Wide Oval)

EG-59、EG-60モデルに使用されているもので幅2.7%高さ0.9%のフレット。ミディアムラウンドに比べて幅が広く、フィンガリング、チョーキングもスムーズにきまるプレイアビリティの優れたものだ。

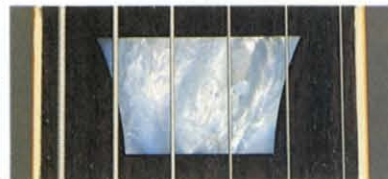


ミディアムラウンド

ワイドオーバル

ポジションマーク (Position Markers)

ポジションマークはEGシリーズ全モデルにバケットスタイル (Bucket style) のパールロイドマークを採用。サイドポジションマークはこれまたオリジナルと共通の2.0%のラージポイントで、見やすくルックスもバツグンのすくれたものだ。



サイドバインディング (Side Binding)

EGシリーズのサイドセルにはオリジナルのセル同様にナロータイプ (Narrow type) 1%厚のセルを採用。ネック回りをスッキリ、クッキリと処理している。フレットとのマッチングもパーフェクトでミディアムラウンド、ワイドオーバルのどちらにも絶妙なバランスを保っている。エッジングはEG59-45はオーバーバインディングをEG59-50以上の全機種にはカバードエッジバインディングを採用。

